

調査当時に於ける成績は以上の通りであるが、接木後学重の悪化や風害等の故障の為折角活着の状態にありながら毀損したこども可成あつた。

スル年秋の実行者は講師を味き殆ど当場委にして接木を始め実行する人達であり、この成績も危まれたが、オ一回の試みとしては可成の成績であつたと思われる。

春接は2月25日穂を採集して貯蔵し秋接阿杯の方法により施行した。

接木糞を使用した分も同じ時期に採集して貯蔵したものを使つた。

オ一回の試みで結論を云々するのは早計であるが、居接と上げ接の關係、活着後の発根及び上段生長關係定植後の生長關係等更に今後研究すべき甚多の問題が存在するものと信ずるものである。

台湾産樹種の成育について

附 タンニン・アカシアの一・二の試験

宮崎県林務部 藤川 八松

本年6月7日宮崎大学にて研究発表会があつた時、若干報告させて貰つた台湾産樹種の苗畑に於ける其後の成育とタンニン、アカシアについて報告させて貰ひ度い。

昨年4、5月私の宅で播種した相思樹外5種はユーカリ、ワットル、広葉杉は競争露地にて越冬したが、相思樹、木麻黄は炭酸で簡単な防寒装置をしてやつたが、木麻黄は全節枯死、相思樹は4本本の内約半数は枯死し他のものは地上3cm位の処から剪定してやつたら根際から新芽が出て元氣になつた。

ユーカリ、ワットルは方々に分譲したが譲り発効記念として4月29日連絡事務所の前庭に2本宛移植した。ワットルの内1本は最大の成育をしたもので根元至25cm、樹高3m余りもあつたが移植してから次第に弱わり活着がむつかしいと思つていたら7月初め根元より新芽が2本出たので地上5cmから切、新芽も一本を残し他の一本も剪定せり。現在ユーカリは140cm、155cm、ワットルは2本とも140cm(移植時はユーカリ70cm、ワットル50cm位)の生長をなす。相思樹は専売公社くす藍林地に3本、試験苗畑に数本移植したが成育あまりよくない。現在30cm程度、広葉杉は2本共苗畑に移植したが過難に会つた。

ワットル、ユーカリとも各月大体1本宛移植したが鉢付して(黒ボクでよくつかないが手で固め新聞紙などに固く包んで運搬)移植すれば相当大きいものでも可能なり。

次に宮崎県南那珂郡福島仲町に播種したものの今月初め調査した結果をオ一表及オニニ表に記載せり。オ一表、オニ表

前回の時は発芽したばかりでその鬼運かはつきりしなかつたが現在では大体はつきりして来た。11月から来年少月迄の寒さを越す間に大々的に防寒装置をしたが翌春には相当定植出来るものと予想される。

オ/回播種の方は発芽促進を行わなかつた同発育の不整と、コーヒーの如く外皮が固いものは発根はしたが双葉が出されずに枯死しているものもあり、絶対に発芽促進の必要を感じた。

オ2回オ3回ともメルクロン溶液に約2時間浸漬し其後にまだ外皮の固いものは清水に12時間〜24時間浸漬したから大体に於て整つた株に思われる。

唯ベコテウのみが始め良好な発芽をしたものが沢水に枯死するので過湿の害と思われたが或は台地では石灰分の多い処を好んで生育するから酸性土壌を嫌つて枯死するかも知られる。

特に良好な生育をしているものは裸肥のクロタラリヤ、樹豆、印度田菁であるが之等は本質でなく草本類であるが用材薪炭材としてのユーカリ、木麻黄、広葉杉、相思樹、シトネリコ、マホガニイ、タガヤサン、ギンネム、ラネテ、インドシタン等は有望なものと思われる。觀賞木としてはハウオウボク、オウギハセウ、火焰木、ハウヒニア、カコアラ、ヤシ類がよく果樹類ではボンカン、シヤカトウ、バンジロウ、パパヤ、セイロンオリーブ等が有望と思う。

何れにせよ之等のものは沿岸地帯の温暖な風衝地でない処で熱土の樹種の中に適当に混植し沢水に当渠の気候に順応させることが必要と思う。

報告があつたら苗木防寒装置を施行した結果を報告させて貰いたいと思う。

(オ1表) オ / 回 播 種 昭和27年3月14~15日播種

樹 種 名	4月5日		4月26日		5月9日		5月29日		7月30日		9月7日		9月19日		11月3日		播種量	発芽率
	本数	苗高	本数	苗高	本数	苗高	本数	苗高	本数	苗高	本数	苗高	本数	苗高	本数	苗高		
イランイランキ <i>Conaugium odoratum</i>									5	3			5	5	5	5	72	7%
インドシタン <i>Pterocarpus india</i>									6	5			11	11	11	15	53	20
シマサルズベリ <i>Lagerstroemia subcostata</i>									5	4			1	33	1	118	約200	25
ソカ									2	7			8	13	8	15	24	33
シトリオドラ			12		15		20	3	3	10			4	57	4	80	-3	
ユーカリ																		
アケノキ					2		133	5	246	7			268	20	268	30	500	53.6
ビヤクタン															1	8	22	5
モンタナ																	50	

樹種名	11.5		4.26		5.9		5.29		7.30		9.7		9.19		11.3		挿 種 量	発 芽 率
	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高		
ヒルマヌム						3	5	3	10			3	17	3	22	7	43 ³⁶	
ロッドワンド			4	4	5	5	11	10			15	18	15	25	100	15		
大葉マホカニ																17		
旭春庭 ミロバラン												1	8	1	8	15	6	
中明産							1	10			3	11	3	12	30	10		
トックリヤシ										9	11	10	10	12	33	33		
ヤハスヤシ															394			
コーヒー						5	6				9	8	9	8	221	47		
トックリヤシモドキ									50		62	15	62	17	230	27		
モクマオウ	15	226	500	3	1251	6	1251	18			1693	36	1693	40				
オホギバセウ								7		6	4	6	7	39	18			
バンジロウ					10	3	33	5			23	13	23	15	25			
ポンカン					2	3	1	6			1	7	1	10	37	54		
シヤカトウ					25	4	54	8			108	19	108	20	166	65		
パラミツ																4		
サボテラ																4		
トゲバンレイシ																5		
レイシ																2		
広葉杉		90	160	142	3	142	6				221	9	221	12				
相恩樹	47	1840	2010	5	2260	6	2260	18			2216	45	2216	54				
ロフスター コーカリ	12	19			121	3	230	10			225	45	225	50	58			
ホウオウボク		13	15	5	23	6	28	10			31	49	31	55	115	27		
小葉ホウピア		2	5	79	3	97	12				104	28	104	30	206	50		
大葉																114		
カユアテ											259	10	251	15	15			
印度田苗		4	10	44	4	40	6				50	66	50	75				
アトウルクシ		34	50	56	5	43	15				37	29	37	40				
ユスラヤシ																502		
ナンバン アカズキ			2			69	7				130	15	130	15	305	42		
モモタマナ						2	8				2	20	2	25	5	40		
カントン アヌラギリ					7	9	12	30			12	70	12	80	27	44		
八重山シタン																21		

樹種名	4.5		4.26		5.9		5.29		7.30		9.7		9.19		11.3		播種量	発芽率 [%]
	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高		
スーパ													4	6	4	7	45	88
ソラツ													6	9	6	10	6	100
シマトネリコ						115	4	141	6				157	27	157	34		
カイドウ							4	13					5	15	5	17	10 ^種	50
クジャクヤシ										22			21	11	21	11	82	268
マツデアヤリ				1	1	7	1	15					1	30	1	30	53	2
サシマスウギ								1	9				1	13	1	15	2	50
コシマクマ						6	6	55	7				93	10	93	15	163	57
バナコック ファンタン																	4	
カンラン																	2	
アレカヤシ																	240	

表2 表 2回播種の分 5月15~18日播種

樹種名	5.27		7.30		9.7		9.19		11.3		播種量	発芽率
	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高		
パパヤ			3	4			1	30	1	55	2 匁	
大玉ヤシ					3		3	17	3	19	14 粒	2.1%
タイトウウルシ											12	
エスロマシ											49	
支那油桐			21	12			22	27	22	30	118	18.6
油ヤシ											6	
セイロンオリーブ			5	8			103	10	103	12	140	7.3
ククイナツト			5	14			8	27	8	35	107	7.5
ヒノキ											4 匁	
ベニヒ											4 匁	
大葉マホザニー			3	13			3	17	3	21	9	3.3
柚 柑											15	
大葉ボンカン											13	
柚 柑											4	
紅豆			7	8			8	10	8	15	33	24.2
樹豆			2	65			2	170	2	200	14	1.5
クロタラリア ツサラメンシユ	38		38				73	150	73	170	1 匁	

樹種名	5.27		7.30		9.7		9.19		11.3		播種量	発芽率
	数	高	数	高	数	高	数	高	数	高		
タマリンド	7		49	14			51	19	51	25	80	63.7%
遊梨柑											4	
ベニコナツ	142		132	10			96	10	56	11	4 匁	
タカマサン	389		1250	5			1604	32	1604	40	4,000 粒	40.1

表3 表 水三回播種 昭和27年6月12~13日播種

樹種名	7.11		7.30		9.7		9.19		11.3		播種量	発芽率
	本数	苗高	数	高	数	高	数	高	数	高		
ギンネム	1200	6 cm	1880	7			2246	40	2206	50	4400 粒	49%
インドジズノキ							発芽見込なし				0.2 匁	極小粒
火燭木	49	1	54	2			35	4	19	6	2000 粒	2.7
大王ヤシ											24 粒	
アネテ	103	4	110	5			107	10	107	15	230 粒	48%弱

タンニン、アカシア(ワットル)の一、二の試験

タンニン、アカシアは特用樹の内でも新しく然も有望なる樹種であるので各所で色々な試験、栽培が行われ特に鹿児島県種子ヶ島の日本香料製品株式会社農場では佐々木舜一氏(元台湾総督府技師、陸軍司政官)が5町歩余を造林され良好な生育をしている由、然し本樹は移植が困難なのと種子が多量に入手出来ないのが今後の問題はこの方面に集中されると思う。それで私が台湾で試験した一、二のものを挙げて参考にしたい。

表A 表 直播試験

表B 表 移植試験

試験地は高尾川屏東郡高樹庄尾寮山幸兼地(海拔約1,100 m)で高砂炭が永年耕作した地域で地味不良、傾斜5°~10°東面の乾燥地
移植試験に於て各方法別の記録はないが直径0.8 cm以上、地上20 cm前定、幹、枝共に剪定したものが最も結果がよかった。

直播、移植共に結果より見て成種の悪いのは、直播に於いては播種期がおくれ(普通3月中旬~下旬)ケラ、コホロギ等の活動期に入ったため発芽したものが被害されたこと、移植に於ては乾燥のため(土地が膨軟、砂礫質)次第に枯死したものと認められる。今後は移植、挿木、分根等の方法に付積極的な試験、研究が必要とされる。

尚次に本樹のタンニン含有量を測定した記録を挙げると

表C 表 タンニン、アカシアのタンニン含有量(昭和17年10月台湾総督府中央研

瓦崎工業部田崎囃託分析)

スラミチノク群皮用タンニンの最良産地は世界中でもケスラッチヨク(南米産)、ミロバラ
ン(英印)、マンタローブ(蘭印、東アフリカ、比島産)と共にタンニン・アカシアの
タンニンは産量共にすぐれたものである。我が国で年々輸入する量は、アカシア樹皮で
年2億円以上になると予想される。故に本樹の造林面積を増加すると共に短伐期産業を
行い一日も早く優秀なるタンニン剤の国産を生産しなければならない。

ヤC表の如く1年9ヶ月でタンニン分が25%前後あるから伐期5年として25%は
絶対に下らないものと予想される。或は30%位迄含有するかも知れない。

今樹令1年半のもの樹高3.7m根元至5.0mのものを剥皮秤量したら全部で生皮600
gを有たので3年生として樹高8m、根元至10cm、樹冠至1.5と予想すればこの生
皮量は樹高2.2倍、根元至2倍として4.4倍とすれば2640g(主幹2200g、
枝葉440g)となる。

今田舎植栽本数を1.5m²~1.5とすれば4440本、活着率80%として3550本と
なる。収支計算をすれば別表Dの如くなる。

オD表、タンニン・アカシアの造林収支計算表

以上大体の目安であるがタンニン・アカシアの造林は今尚益々増大するものと見われ
る。剥皮せる材は薪炭材或は杭木、枕木等に適する。伐採日は一、三代萌芽更新で廻来
するから其後は益々純益が増加するものと予想される。

何卒今尚本樹の特性を認識され、タンニン原料としては勿論、肥料木として地被植物
としてあらゆる角度より利用、栽培されることを希つてこまない工夫である。

長崎県南松浦郡の椿に関する調査

長崎県林務課 松井時雄
古賀淳

一、本調査の目的

椿は本郡到る處に自生分布し年産額千石を超え、特殊林産物中の首位を占め五属椿
と称せられ古くから山村農家の重要な収入源であり、又自家用としても貴重視されて
きた。

その高椿樹は極めて大切に取扱われ雑木林を伐採する際には必ず椿樹を保存する慣習
を生じ、その蒸育管理についても地区的に研究せられ来たものの如くである。然し
乍ら本郡に於て椿について系統的に調査研究せられたものがなく林業技術普及の立場
からも結果の世襲と外部形態、油種価値、蓄積性との関連を知る上に役立つ資料を急
速に必要としているので充分な準備もなく不備拙穢を免れないが現在までの調査結果
を次に発表する。